

Title	2013 年度 グリーフケア・ルーム年俸
Author(s)	藤掛, 明
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.24-No.1, 2014.9 : 31-31
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5170
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2013年度 グリーフケア・ルーム年報

1. はじめに

2003年11月10日、聖学院大学総合研究所カウンセリング研究センターの補助活動業務として、東京都港区内の一室で、心理相談室「グリーフケア・ルーム」がスタートした。月曜日限定の活動であるが、地道に活動を重ねており、一般社会向け、キリスト教界向けの相談室として、今日に至っている。

2. 相談概況

(1) 相談件数

下表参照

(2) 新規ケースの主訴内訳

- 11件中、4件 子育て、こどもの問題行動など
- 2件 教会生活、信仰生活
- 2件 親との関係、家族関係
- 1件 グリーフ
- 1件 夫婦関係
- 1件 職場の人間関係

(3) 新規ケースの相談経路内訳

- 11件中、4件 牧師・教団からの紹介
- 3件 インターネットを見て
- 2件 家族からの紹介
- 2件 講演会で知って

(4) 新規ケースの信者・未信者内訳

- 11件中、10件 信者
- 1件 未信者

(5) 新規ケースの住居地域内訳

- 11件中、8件 東京都
- 2件 千葉県
- 1件 神奈川県

3. 考察

(1) グリーフケア・ルームは、2013年12月に、開室時から室長として、また精神科医師として責任を負っていた平山正実氏が召天し、大きな悲しみを経験した。その後も、故人の遺志を継承し、希少なキリスト教界向けの心理相談室として活動を続けている。

(2) カウンセラーが、2013年1月から3名体制となった。ただし、カウンセラー2名は原則隔週出勤であり、のべ出勤数は変わらない。2013年度は、単発的相談が増え、また継続ケースの終結も目立ち、前年度に比べ、面接件数は少なくなった。

(3) 以下、2013年度の新規ケースについて見ると、相談内容（来談者の主訴）については、子育て問題、家族問題が目立っている。

(4) キリスト教界でも、本相談室は認知されている。来談者も、キリスト教信者が多く、この傾向は年々強くなっている。

(5) 相談経路を見ると、牧師や教会関係者からの紹介が多くなっている。これは、教界内での一定の評価を得ているものと考えられる。

(6) 利用者の居住地を見ると、東京都が中心である。

	カウンセラーA	カウンセラーB	カウンセラーC	新規	累計
4月	3	4	5	0	12
5月	2	3	1	1	18
6月	2	3	3	0	24
7月	3	4	2	3	33
8月	3	3	4	0	43
9月	3	2	4	1	52
10月	3	4	2	2	61
11月	2	3	3	3	69
12月	3	1	1	4	74
1月	2	4	0	2	80
2月	3	2	0	0	85
3月	2	4	1	1	92

(文責：藤掛 明 [ふじかけ・あきら] 聖学院大学人間福祉学部子ども心理学科准教授)